

「性の多様性」に関する 市民意識調査報告書

大村市総務部

男女いきいき推進課

目次

I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 集計結果利用上の注意	1
4 標本特性	2

II 調査結果の分析

1 自認する性別	4
2 恋愛や性愛の傾向（好きになる相手）	7
3 「性的少数者（性的マイノリティ）、「LGBTQ+」の認知度	10
4 性的マイノリティ当事者身近の存在	13
5 「アウティング」の認知度	16
6 LGBTQ+などの性的マイノリティにとっての暮らしやすさ	19
7 LGBTQ+などの性的マイノリティにとって暮らしやすいと思う理由	22
8 LGBTQ+などの性的マイノリティにとって暮らしやすいと思わない理由	23
9 暮らしやすい社会を作るための取組の必要性	27
10 暮らしやすい社会を作るための取組内容	30
11 本市でのパートナーシップ制度取組の必要性	34
12 パートナーシップ制度への異性カップル対象の必要性	38
13 自由意見	42

III 参考資料

「性の多様性」に関する市民意識調査調査票	44
----------------------	----

1 調査の目的

市民の「性の多様性」に関する意識や実態について把握するとともに、性的マイノリティの人権に関わる現状と課題を整理し、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とする。

2 調査の設計

(1) 調査地域

大村市内全域

(2) 調査対象者

大村市民

(3) 調査の方法と期間

市ホームページで公開し、アンケートフォームから回答受付

調査期間は令和4年12月23日から令和5年1月22日まで

(4) 調査回答件数

757人 市ホームページ

内訳：男性 248人 (32.8%)、女性 506人 (66.8%)、

その他 3人 (0.4%)

【参考比較】本市では、「第5期おおむら男女共同参画プラン」策定のための基礎資料として、令和3年1月に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、市内に居住する18歳以上80歳未満の市民3,000人を年齢構成比で無作為に抽出し、郵送と市ホームページのアンケートフォームから回答を回収した(1,298人回答)。今回の調査は、プラン策定時の調査と対象や調査方法が異なるが、同様の設問に対する回答については参考として比較した。

3 集計結果利用上の注意

(1) 集計結果は、調査回答件数(図ではnと表示)を基数として百分率(%)を算出し、少数第1位(第2位を四捨五入)までを表している。

(2) 少数第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%とならない場合がある。また複数回答の質問においては、百分率の合計が100%を超える場合がある。

(3) 図表中に記入されている回答比率のうち、低比率のものについては表示しない場合がある。

(4) 図表の表頭、表側部分の文章は、適宜簡略化して表記している場合がある。

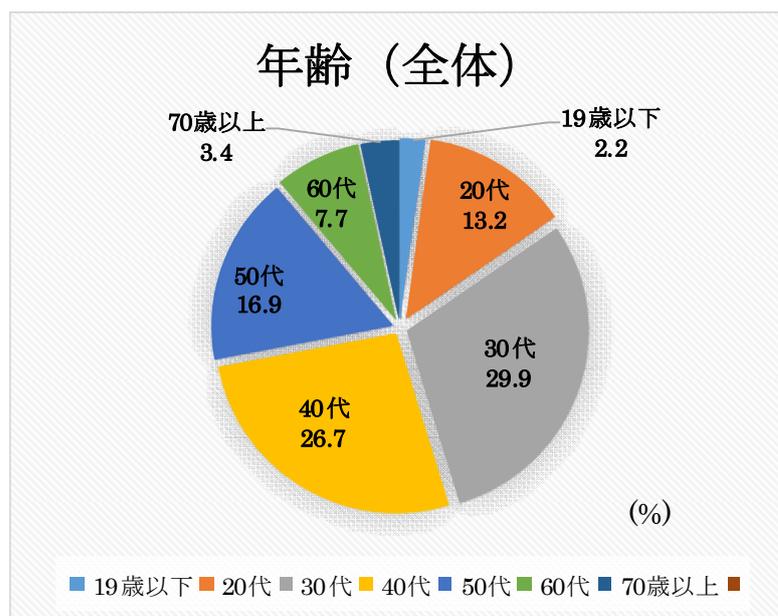
4 標本特性

本調査において、有効回収され集計の対象となった標本の特性は次ページのとおりである。

(1) 年齢

年齢別で見ると、「10代以下」が17人で2.2%、「20代」が100人で13.2%、「30代」が226人で29.9%、「40代」が202人で26.7%、「50代」が128人で16.9%、「60代」が58人で7.7%、「70代以上」が26人で3.4%となっている。

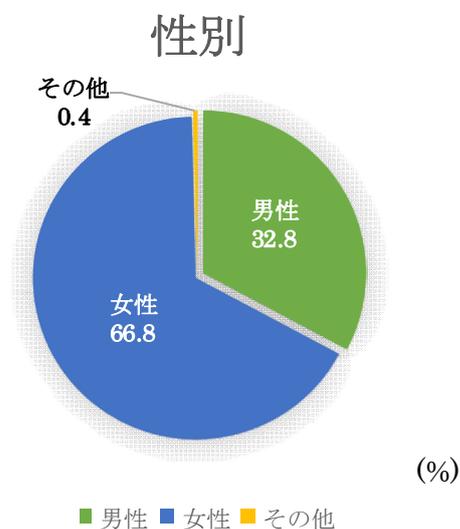
回答の割合としては30代が最も多く約30%、次いで40代26.7%、50代16.9%の順となっている。



(2) 性別

性別で見ると、男性が248人で32.8%、女性が506人で66.8%、その他(無回答含む)が3人で0.4%となっている。

回答の割合としては、女性が66.8%で男性の32.8%を34ポイント上回っている。



調査回答数

項目		実数(人)				構成比(%)			
		全体	男性	女性	その他	男性	女性	その他	項目内
		757	248	506	3	32.8	66.8	0.4	100.0
1年齢	19歳以下	17	6	10	1	2.4	2.0	33.3	
	20代	100	20	79	1	8.1	15.6	33.3	
	30代	226	73	152	1	29.4	30.0	33.3	
	40代	202	57	145	0	23.0	28.7	0.0	
	50代	128	53	75	0	21.4	14.8	0.0	
	60代	58	25	33	0	10.1	6.5	0.0	
	70歳以上	26	14	12	0	5.6	2.4	0.0	
2性別	男性	248	537	0	0	100.0	0.0	0.0	
	女性	506	0	743	0	0.0	100.0	0.0	
	その他	3	0	0	18	0.0	0.0	100.0	

(%)

	全体	男性	女性	その他
19歳以下	2.2	2.4	2.0	33.3
20代	13.2	8.1	15.6	33.3
30代	29.9	29.4	30.0	33.3
40代	26.7	23.0	28.7	0.0
50代	16.9	21.4	14.8	0.0
60代	7.7	10.1	6.5	0.0
70歳以上	3.4	5.6	2.4	0.0
男性	32.8			
女性	66.8			
その他	0.4			

問4 あなたの自認（自覚）する性別について教えてください。

▶ 「戸籍上の性別と同じ」が97.4%

「戸籍上の性別と同じ」人の割合は97.4%で、ほとんどの人が戸籍上の性別と同じであった。

性別による認知度の大きな差は見られない。

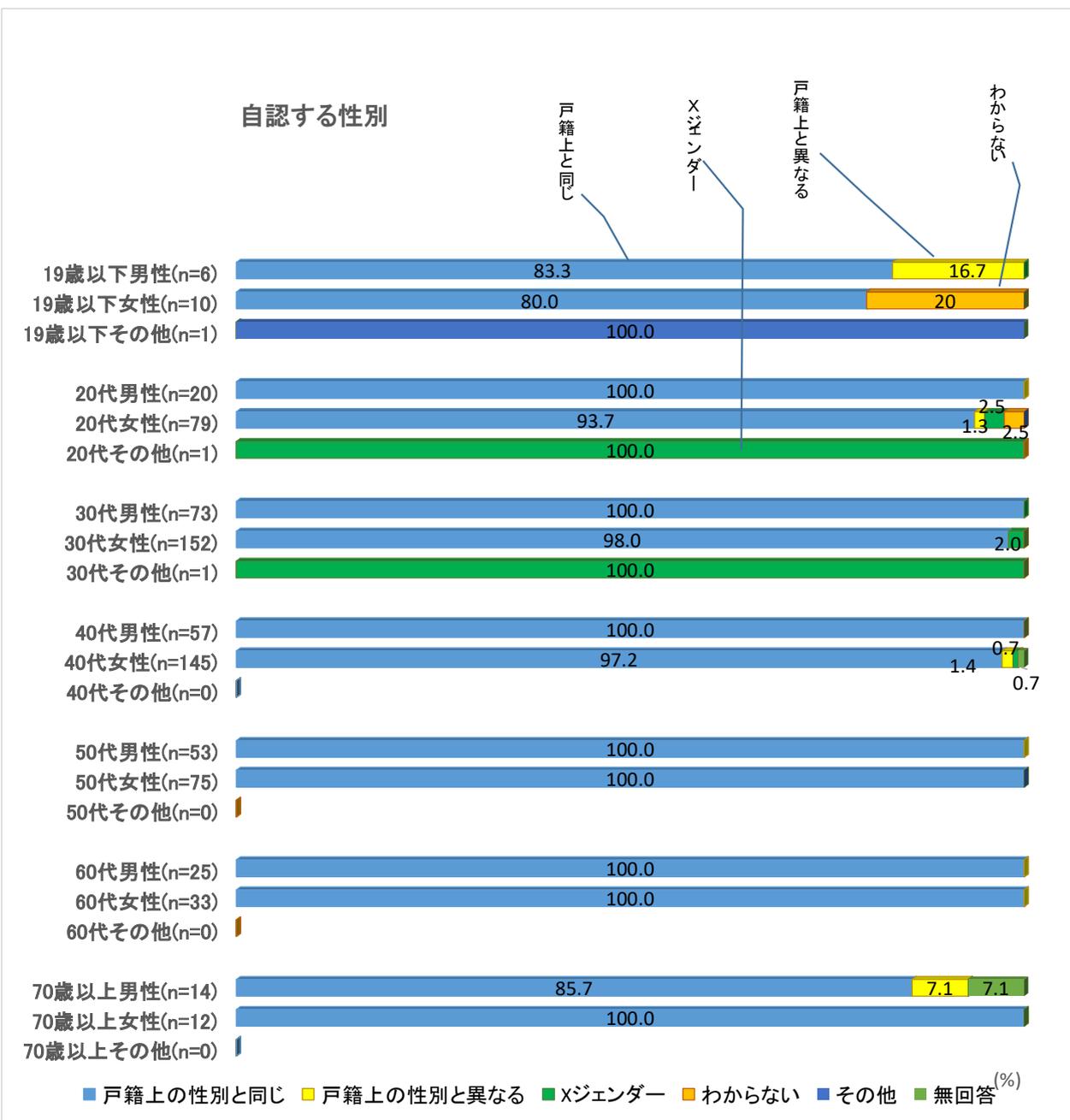
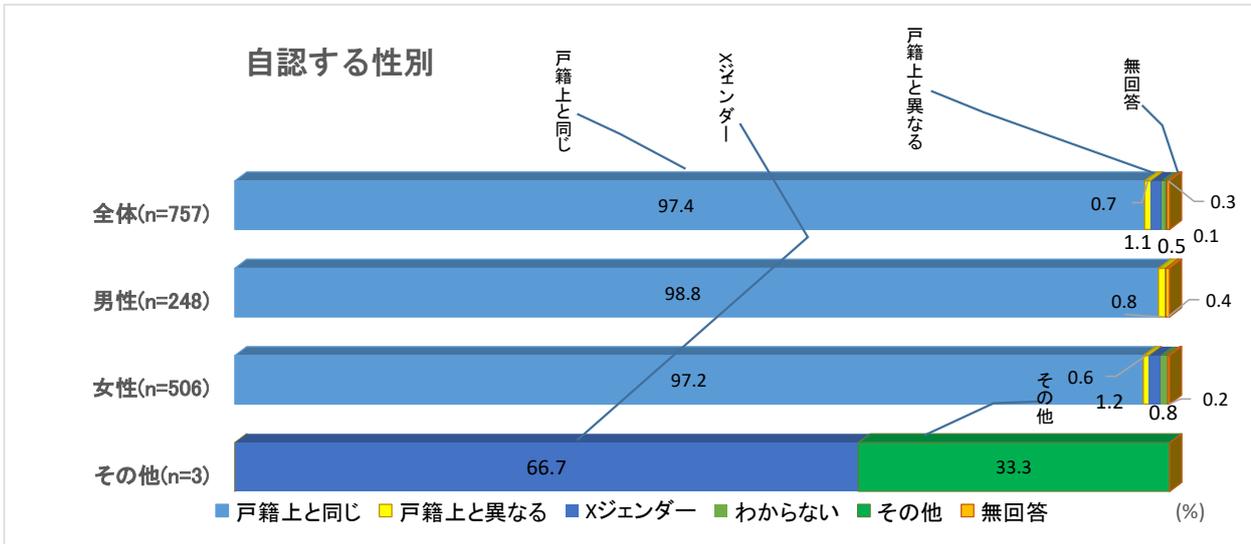
年代別で見ると、20代～40代において「Xジェンダー」もわずかにみられた。

※Xジェンダー：性自認が出生時に割り当てられた女性・男性のいずれでもないという人

●自認する性別『その他』の意見（1件）

【意見】

・自身は性的マイノリティの当事者ではないが、それでも男性であること（社会的責任や立場？）に疲れたりした時、ただの憧れで女性で生きたいと思うこともあるし、女性の様に美しくなりたいと普通に思うことはある。（30代／男性）



問4
自認する性別

項目	標本数		戸籍上と同じ	戸籍上と異なる	×ジェンダー	わからない	その他	無回答	
	人	%	%	%	%	%	%	%	
性別	全体	757	97.4	0.7	1.1	0.5	0.1	0.3	
	男性	248	98.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	
	女性	506	97.2	0.6	1.2	0.8	0.0	0.2	
	その他	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	10	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代	男性	20	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	79	93.7	1.3	2.5	2.5	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	152	98.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	145	97.2	1.4	0.7	0.0	0.0	0.7
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	75	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	33	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	85.7	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1
		女性	12	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

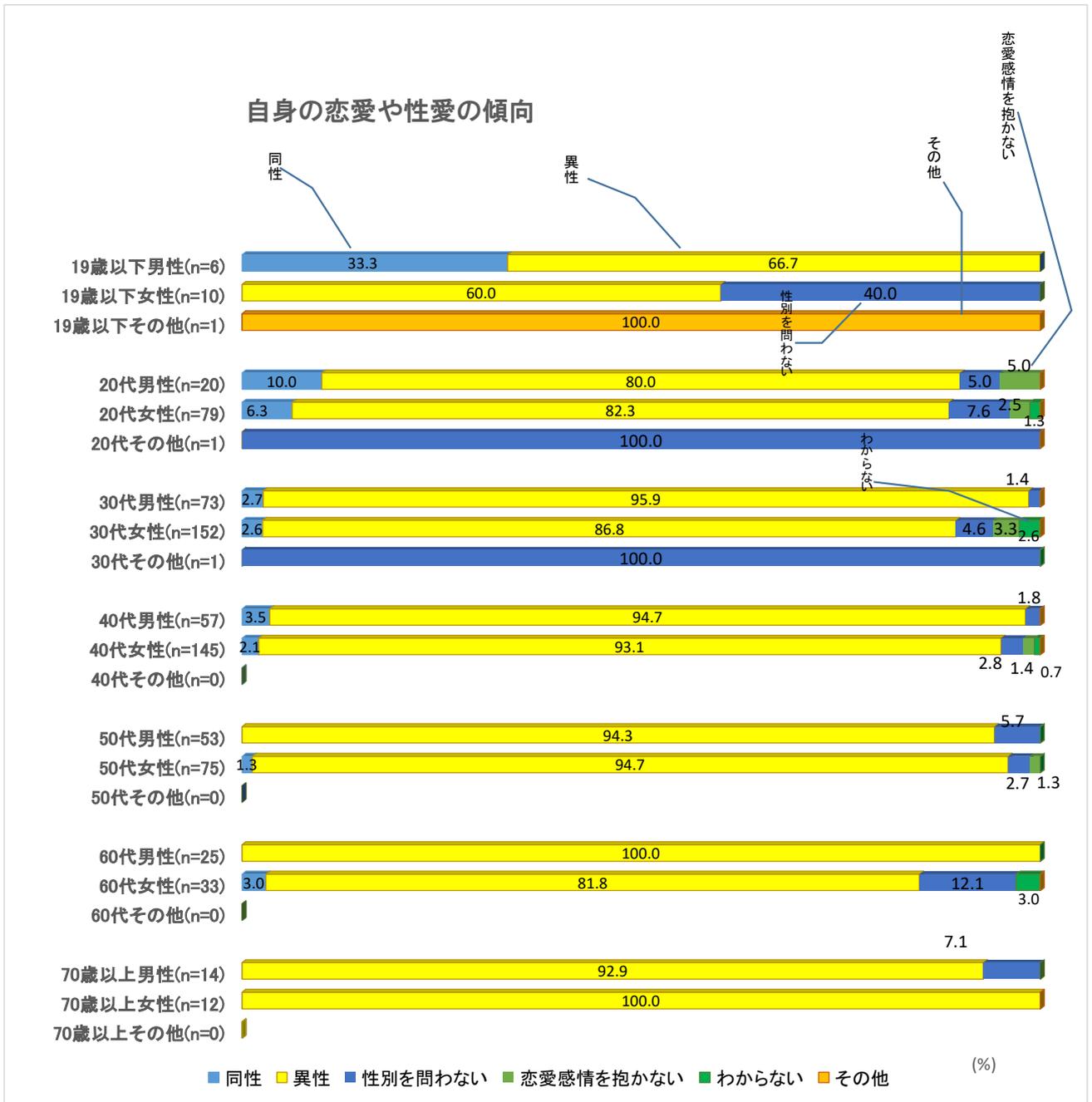
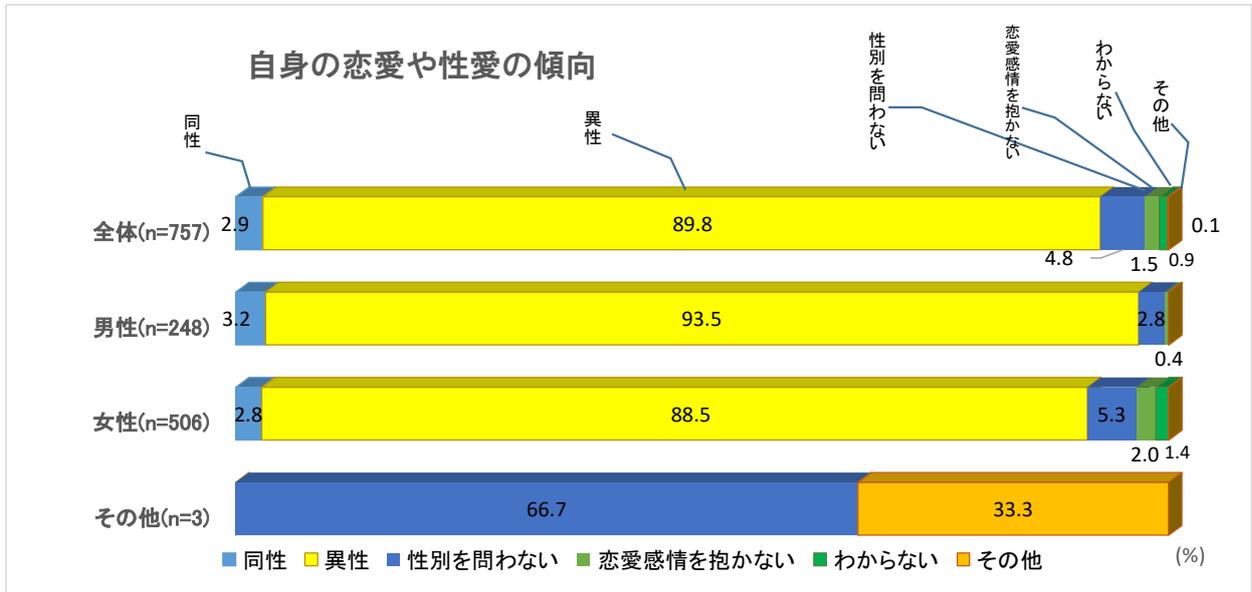
問5 あなたの恋愛や性愛の傾向（好きになる相手）で、あてはまるものを自認（自覚）する性をもとに教えてください。

▶ 「異性」が89.8%

恋愛や性愛の傾向について、全体では「異性」の割合が89.8%で大多数であり、「性別を問わない」の割合は4.8%、「同性」の割合は2.9%であった。

19歳以下の男性では、「同性」の割合が33%で、19歳以下の女性と60歳代の女性で「性別を問わない」がそれぞれ40.0%、12.1%と、年代や性別により回答が異なる。

年代別で見ると、若い年代になるにつれて、「同性」の割合が高くなる傾向が見られた。



問5

自身の恋愛や性愛の傾向

項目	標本数		同性	異性	性別を問わない	恋愛感情を抱かない	わからない	その他	
	人	%	%	%	%	%	%		
性別	全体	757	2.9	89.8	4.8	1.5	0.9	0.1	
	男性	248	3.2	93.5	2.8	0.4	0.0	0.0	
	女性	506	2.8	88.5	5.3	2.0	1.4	0.0	
	その他	3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	10	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	20代	男性	20	10.0	80.0	5.0	5.0	0.0	0.0
		女性	79	6.3	82.3	7.6	2.5	1.3	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	2.7	95.9	1.4	0.0	0.0	0.0
		女性	152	2.6	86.8	4.6	3.3	2.6	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	3.5	94.7	1.8	0.0	0.0	0.0
		女性	145	2.1	93.1	2.8	1.4	0.7	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	0.0	94.3	5.7	0.0	0.0	0.0
		女性	75	1.3	94.7	2.7	1.3	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	33	3.0	81.8	12.1	0.0	3.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	0.0	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0
		女性	12	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問6 「性的少数者（性的マイノリティ）」または「LGBTQ+」という言葉を知っていますか。

▶ 「知っている」が89%

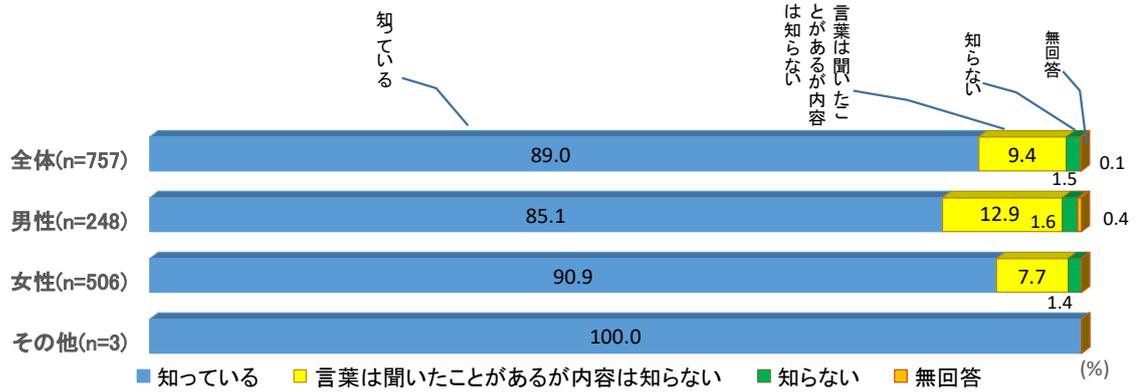
『性的マイノリティ』や『LGBTQ+』という言葉を知っている人の割合は全体では89.0%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は9.4%で、合わせて98.4%とほとんどの人が言葉を知っている。

性別による認知度の大きな差は見られない。

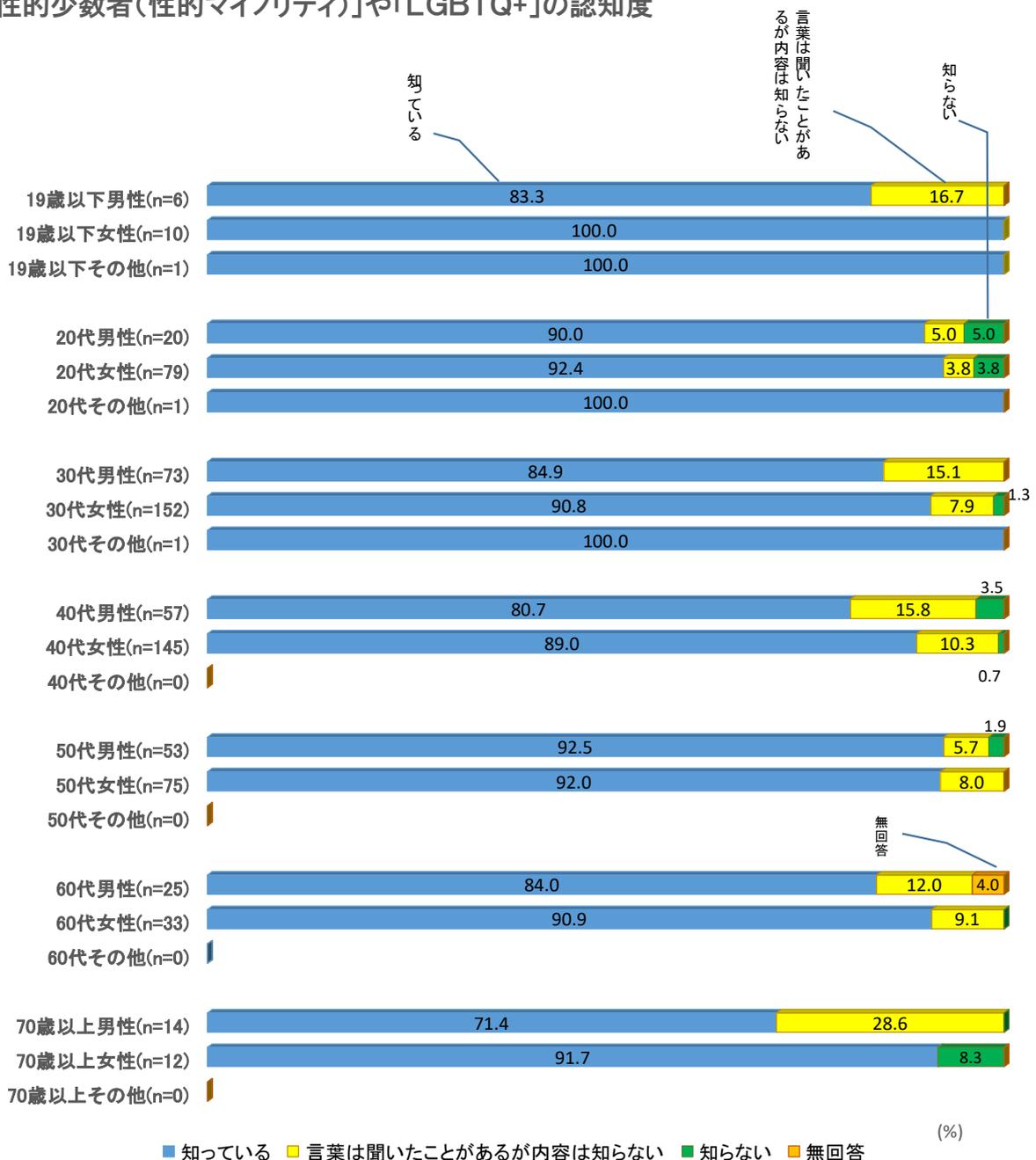
年代別で見ると、10代～20代、50代は9割以上、30代以上（50代除く）は8割以上が「知っている」と答えている。

令和3年1月実施の市民意識調査時では、「知っている」人の割合が61.9%で、今回の調査が27.1ポイント高くなっている。

「性的少数者（性的マイノリティ）」や「LGBTQ+」の認知度



「性的少数者（性的マイノリティ）」や「LGBTQ+」の認知度



問6

「性的少数者(性的マイノリティ)」や「LGBTQ+」の認知度

項目	標本数		知っている	言葉は聞いたことがある	知らない	無回答	
	人	%	%	%	%		
性別	全体	757	89.0	9.4	1.5	0.1	
	男性	248	85.1	12.9	1.6	0.4	
	女性	506	90.9	7.7	1.4	0.0	
	その他	3	100.0	0.0	0.0	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	83.3	16.7	0.0	0.0
		女性	10	100.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	90.0	5.0	5.0	0.0
		女性	79	92.4	3.8	3.8	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	84.9	15.1	0.0	0.0
		女性	152	90.8	7.9	1.3	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	80.7	15.8	3.5	0.0
		女性	145	89.0	10.3	0.7	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	92.5	5.7	1.9	0.0
		女性	75	92.0	8.0	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	84.0	12.0	0.0	4.0
		女性	33	90.9	9.1	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	71.4	28.6	0.0	0.0
		女性	12	91.7	0.0	8.3	0.0
その他		0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問7 あなたの周りで、LGBTQ+などの性的マイノリティ当事者の方は身近にいますか。

▶ 「いない」が62.5%

LGBTQ+などの性的マイノリティ当事者の方が身近にいないと回答した人の割合は62.5%で最も多い。

一方、当事者の方が身近にいると回答した人の割合は31.8%で約3割の人が身近に当事者がいることを認識している。

性別で見ると、当事者の方が身近にいないと回答した割合は男性が女性に対し7.6ポイント多く、身近にいると回答した割合は女性が男性に対し9.6ポイント多かった。

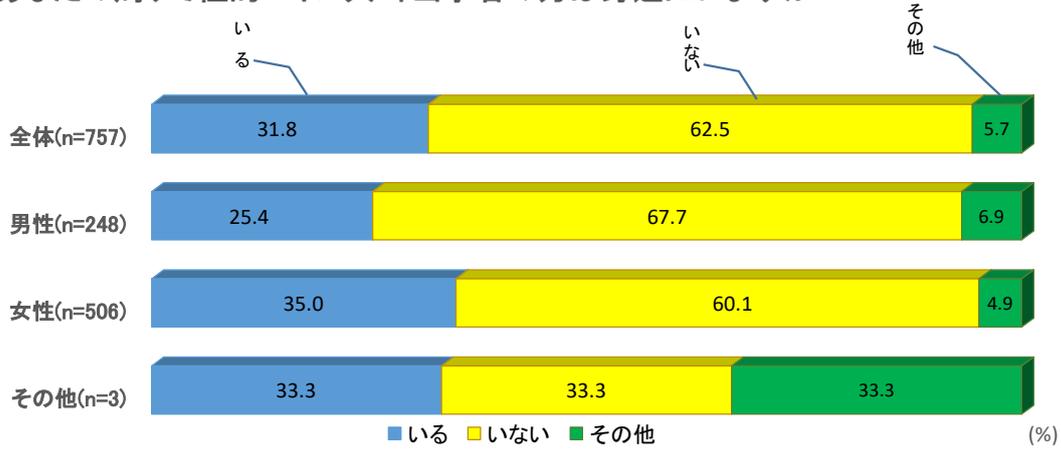
年代別で見ると、10代～20代は4割超、30代は3割超が「身近にいる」と回答している。

● LGBTQ+身近にいるか『その他』の意見 (39件)

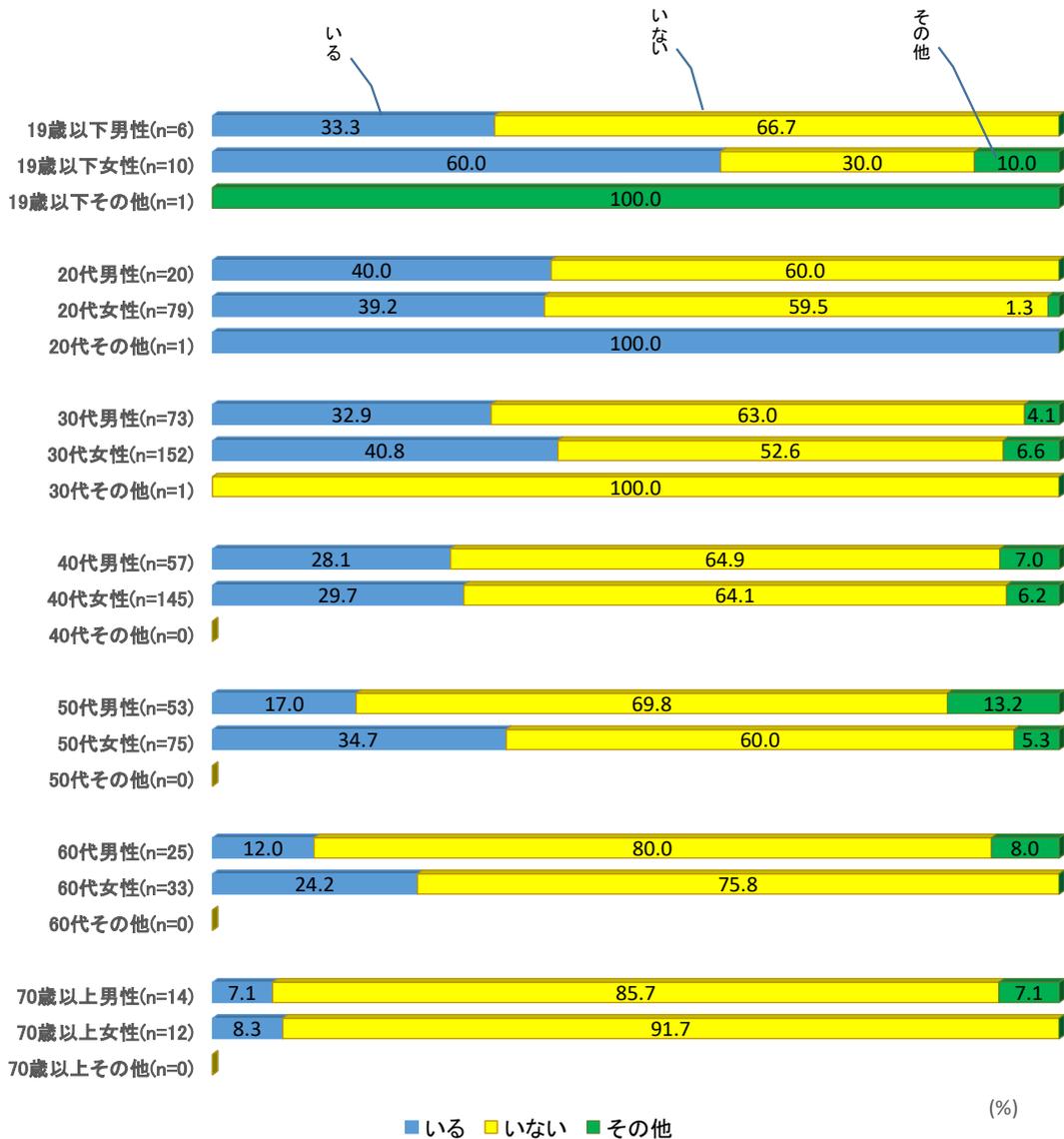
【主な意見】

- ・カミングアウトした人に会った事がある。(50代/女性)
- ・そうかもしれないと思うこともあるが、こちらからは聞けない。(50代/男性)
- ・周りにはいないけれど、知り合いが同性に告白されたことがある。(30代/女性)
- ・友達の友達にいる。(40代/女性)
- ・過去に身近にいたことがあります。(60代/男性)

あなたの周りで性的マイノリティ当事者の方は身近にいますか



あなたの周りで性的マイノリティ当事者の方は身近にいますか



問7

あなたの周りで性的マイノリティ当事者の方は身近にいますか

項目		標本数		いる	いない	その他
				人	%	%
性別		全体	757	31.8	62.5	5.7
		男性	248	25.4	67.7	6.9
		女性	506	35.0	60.1	4.9
		その他	3	33.3	33.3	33.3
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	33.3	66.7	0.0
		女性	10	60.0	30.0	10.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0
	20代	男性	20	40.0	60.0	0.0
		女性	79	39.2	59.5	1.3
		その他	1	100.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	32.9	63.0	4.1
		女性	152	40.8	52.6	6.6
		その他	1	0.0	100.0	0.0
	40代	男性	57	28.1	64.9	7.0
		女性	145	29.7	64.1	6.2
		その他	0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	17.0	69.8	13.2
		女性	75	34.7	60.0	5.3
		その他	0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	12.0	80.0	8.0
		女性	33	24.2	75.8	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	7.1	85.7	7.1
		女性	12	8.3	91.7	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0

問8 性的指向（好きになる性）や性自認（自覚している性）について、本人の了解を得ずに、第三者に暴露する行為「アウトティング」という言葉を知っていますか。

▶ 「知らない」が62.1%

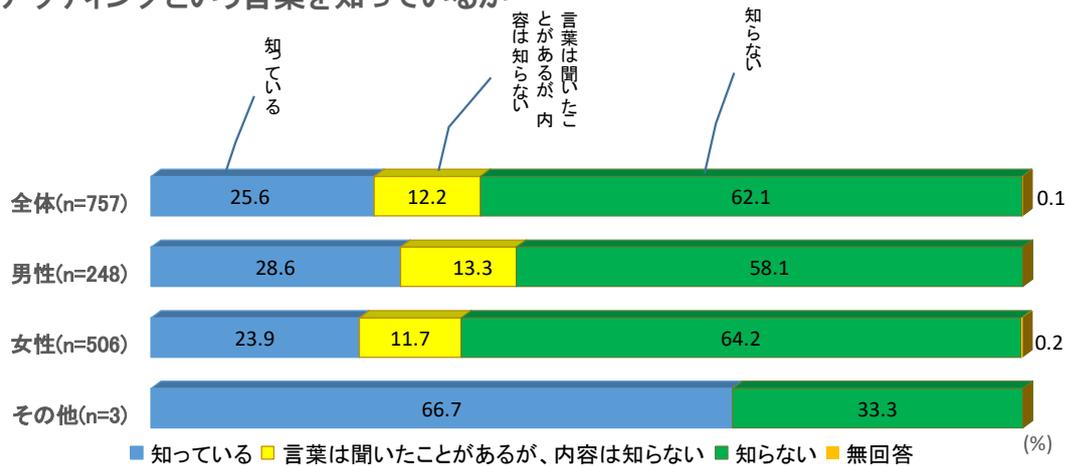
「アウトティング」という言葉を「知らない」人の割合は、全体では62.1%、「知っている」は25.6%、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」は12.2%で、知らない人の割合が過半数を上回った。

性別による認知度の大きな差は見られない。

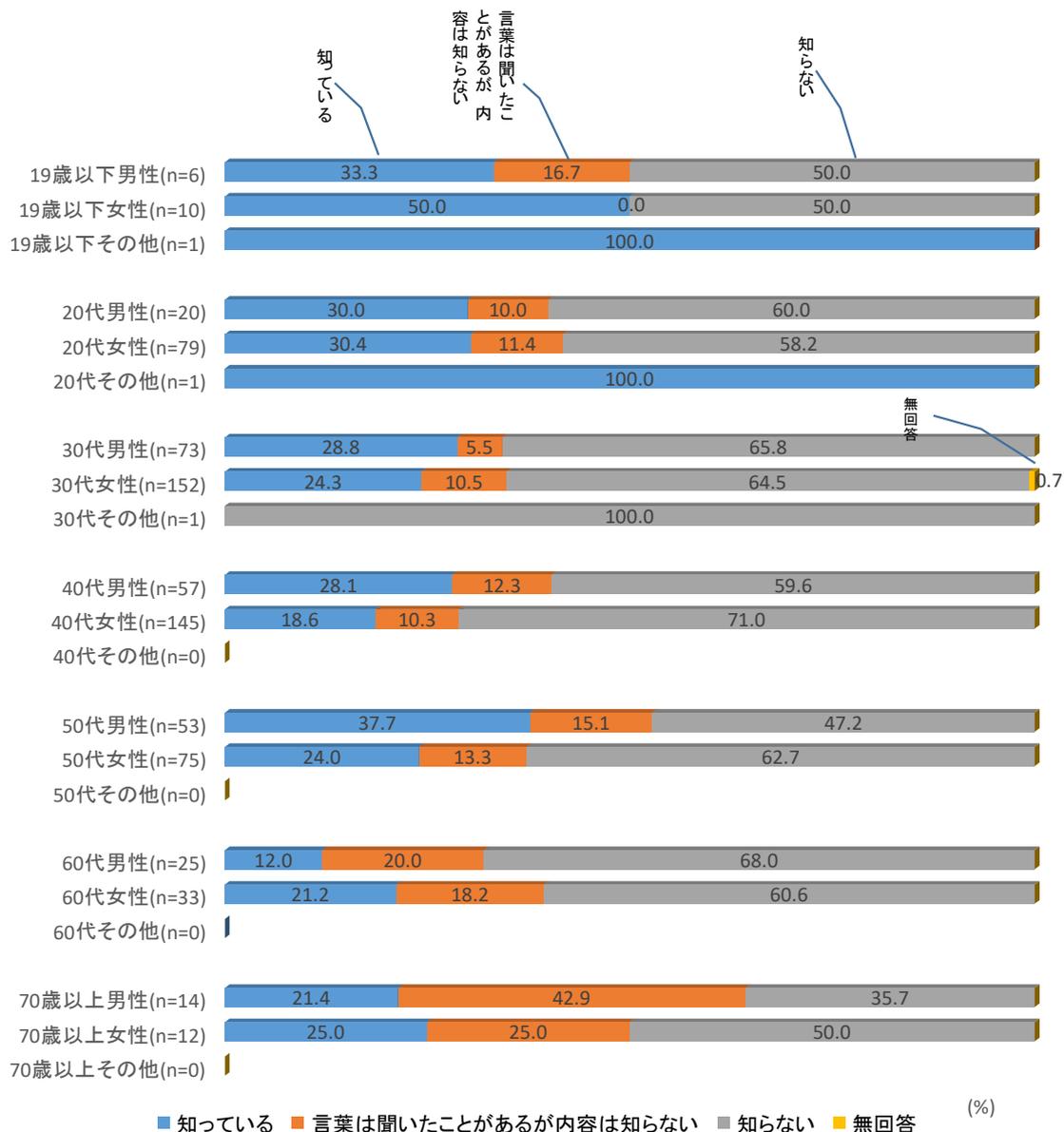
年代別で見ると、「知らない」人の割合が10代、70代は5割前後、20代～60代は6割前後となっている。

本人の了解を得ることなく、本人が公表していない性的指向や性自認などを第三者に暴露する行為である「アウトティング」は、プライバシーを侵害する人権侵害であることを啓発していく必要がある。

アウトティングという言葉を知っているか



アウトティングという言葉を知っているか



問8

アウトティングという言葉を知っているか

項目		標本数		知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない	知らない	無回答
				人	%	%	%
性別		全体	757	89.0	9.4	1.5	0.1
		男性	248	28.6	13.3	58.1	0.4
		女性	506	23.9	11.7	64.2	0.0
		その他	3	66.7	0.0	33.3	0.0
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	33.3	16.7	50.0	0.0
		女性	10	50.0	0.0	50.0	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	30.0	10.0	60.0	0.0
		女性	79	30.4	11.4	58.2	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	28.8	5.5	65.8	0.0
		女性	152	24.3	10.5	64.5	0.7
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	40代	男性	57	28.1	12.3	59.6	0.0
		女性	145	18.6	10.3	71.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	37.7	15.1	47.2	0.0
		女性	75	24.0	13.3	62.7	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	12.0	20.0	68.0	0.0
		女性	33	21.2	18.2	60.6	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	21.4	42.9	35.7	0.0
		女性	12	25.0	25.0	50.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0

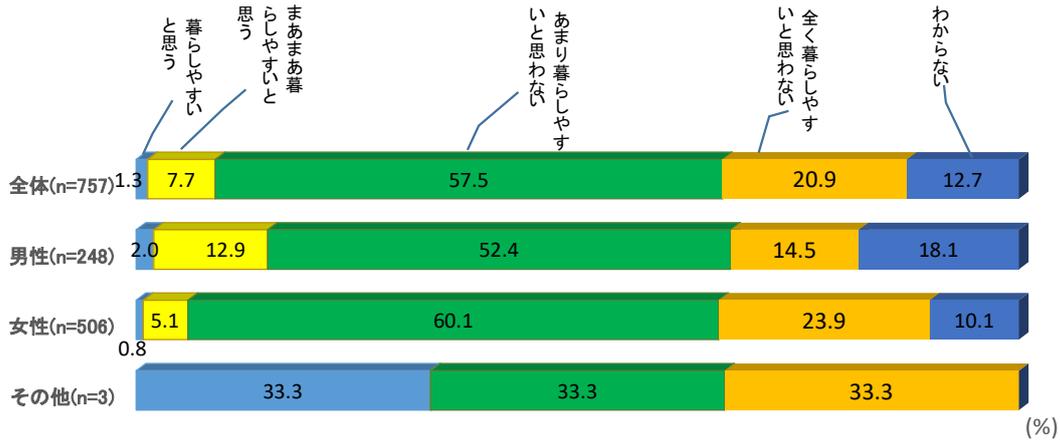
問9 LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は暮らしやすい社会だと思いますか。

▶ 「あまり暮らしやすいと思わない」、「全く暮らしやすいと思わない」78.4%

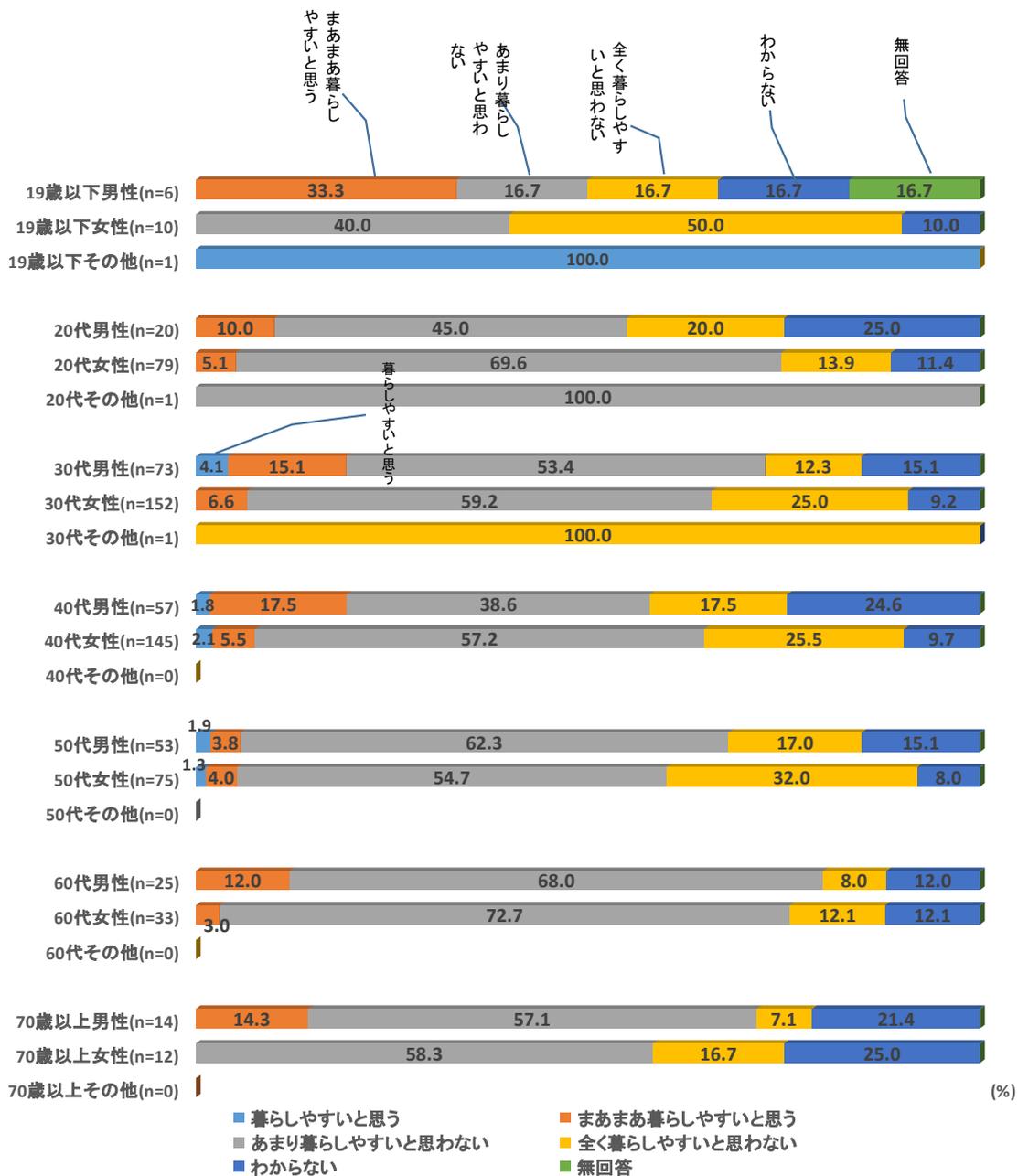
「あまり暮らしやすいと思わない(57.5%)」「全く暮らしやすいと思わない(20.9%)」人の割合が全体では78.4%と、約8割の人が暮らしやすいと思っていない。

性別で見ると、暮らしやすいと思わない人の割合は、女性84.0%、男性66.9%で女性が17.1ポイント上回っている。

性的マイノリティの人たちにとって、暮らしやすい社会だと思うか



性的マイノリティの人たちにとって、暮らしやすい社会だと思うか



問9

性的マイノリティの人たちにとって、暮らしやすい社会だと思うか

項目	標本数		暮らしやすいと思う	まあまあ暮らしやすいと思う	あまり暮らしやすいと思わない	全く暮らしやすいと思わない	わからない	無回答	
	人	%	%	%	%	%	%	%	
性別	全体	757	1.3	7.7	57.5	20.9	12.7	0.0	
	男性	248	2.0	12.9	52.4	14.5	18.1	0.0	
	女性	506	0.8	5.1	60.1	23.9	10.1	0.0	
	その他	3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7
		女性	10	0.0	0.0	40.0	50.0	10.0	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	0.0	10.0	45.0	20.0	25.0	0.0
		女性	79	0.0	5.1	69.6	13.9	11.4	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	4.1	15.1	53.4	12.3	15.1	0.0
		女性	152	0.0	6.6	59.2	25.0	9.2	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	1.8	17.5	38.6	17.5	24.6	0.0
		女性	145	2.1	5.5	57.2	25.5	9.7	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	1.9	3.8	62.3	17.0	15.1	0.0
		女性	75	1.3	4.0	54.7	32.0	8.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	0.0	12.0	68.0	8.0	12.0	0.0
		女性	33	0.0	3.0	72.7	12.1	12.1	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	0.0	14.3	57.1	7.1	21.4	0.0
		女性	12	0.0	0.0	58.3	16.7	25.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10 問9で性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は「暮らしやすいと思う」「まあまあ暮らしやすいと思う」理由は何ですか。

▶「暮らしやすいと思う」(1.3%)、「まあまあ暮らしやすいと思う」(7.7%)
性別で見ると、男性66.9%で女性が17.1ポイント上回っている。

●理由 意見 (59 件)

【主な意見】

- ・昔と比べたら、性的マイノリティの人たちが、認められる社会の雰囲気になってきているから。(40代/女性)
- ・店舗や公共施設に多目的トイレの個室が増えてきているし、メディアや漫画で取りざたされる機会も多く、一昔前よりもカミングアウトしやすくなっていると感じるから。ただ最近をよく分からない市民権を主張する人も出てきて、風評被害が起きないかは心配になる。(30代/女性)
- ・過剰に気を使われすぎ。(30代/男性)
- ・まだまだ偏見を持つ人が多いが、昔からするとメディアの影響もあり認識されてきていると思うから(40代/男性)
- ・LGBTQの人たちが身近にいても、そんなに気にしてる人がいないと思うから。(30代/女性)
- ・若い方の中では多様性に理解が進んでいると感じる。(30代/男性)
- ・性的マイノリティの方のメディア露出も増えているし、有名人もいる。またゲイやレズを題材にしたドラマや映画もあるし理解を得やすくなったのではないか。(20代/女性)
- ・10数年に比べて、社会の理解が進んできているので。しかし、依然差別や偏見には根強いものもあると考えている。(60代/男性)
- ・以前に比べれば良くなったと思う。優遇しすぎる事も差別なのではないか？当たり前になることが大切だと思う。(30代/男性)
- ・身近にいないので詳しくは解らない。(70代以上/男性)
- ・日本では人それぞれに尊重されている。(19歳以下/その他)

「時代とともに理解がされてきている」「表立って差別的な扱いがされていない」といった認識や、「特に若い世代での多様性への理解がすすんでいる」という意見が多く見られた。

問11 問9で「あまり暮らしやすいとは思わない、全く暮らしやすいと思わない」と答えた方で、そう思う理由は何ですか。

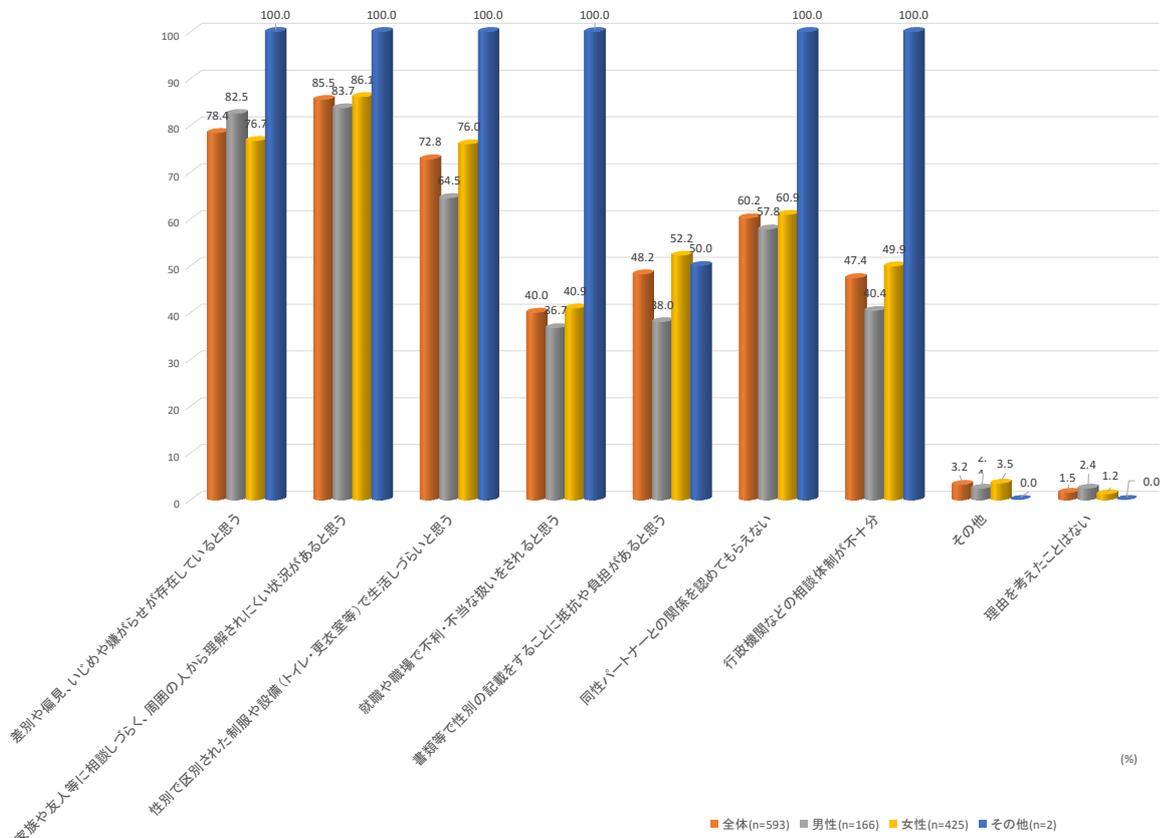
▶「家族や友人等に相談しづらく、周囲の人から理解されにくい状況があると思う」が、85.5%

暮らしやすいと思わない理由を質問したところ、「家族や友人等に相談しづらく、周囲の人から理解されにくい状況があると思う」が、85.5%で最も多くなっている。次いで「差別や偏見、いじめや嫌がらせが存在していると思う」が78.4%、「性別で区別された制服や設備（トイレ・更衣室等）で生活しづらいと思う」が72.8%となっている。

性別でみると、「書類等で性別の記載をすることに抵抗や負担があると思う」は男性38.0%に対し、女性52.2%で14.2ポイント、「性別で区別された制服や設備（トイレ・更衣室等）で生活しづらいと思う」は男性64.5%に対し、女性76.0%で11.5ポイント、それぞれ女性が上回っている。

これらのことから、まずLGBTQについて幅広い世代へ啓発し、理解してもらうことが望まれている。また、国や自治体などといった行政も法などの整備を行っていくことを求められている。

性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は暮らしやすい社会だと思わない理由



(%)

問11

性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は暮らしやすい社会だと思わない理由
 (問9で「あまり暮らしやすいと思わない」「全く暮らしやすいと思わない」と回答した方)

項目	標本数		思が差 うら別 せや偏 が見 存在 してい じめ るや と嫌	思さ うれ に く 周 友 人 等 に 相 談 し づ く 状 況 が あ ら あ る 理 と 解	家 族 や 友 人 等 に 相 談 し づ く 状 況 が あ ら あ る 理 と 解	等 設 備 区 別 生 活 し づ く 状 況 が あ ら あ る 理 と 解	性 別 区 別 生 活 し づ く 状 況 が あ ら あ る 理 と 解	な 就 業 機 会 を 得 る こ と が あ ら あ る 理 と 解	書 類 等 に 対 し て の 負 担 が あ ら あ る 理 と 解	を 同 性 パ ー ト ナ ー の 関 係 と し て の 負 担 が あ ら あ る 理 と 解	行 政 機 関 な ど の 相 談 体 制 が あ ら あ る 理 と 解	そ の 他	理 由 を 考 え た こ と は な い
		人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
性別	全体	593	78.4	85.5	72.8	40.0	48.2	60.2	47.4	3.2	1.5		
	男性	166	82.5	83.7	64.5	36.7	38.0	57.8	40.4	2.4	2.4		
	女性	425	76.7	86.1	76.0	40.9	52.2	60.9	49.9	3.5	1.2		
	その他	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0		
性別 × 年代別	19歳以下	男性	2	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
		女性	9	77.8	66.7	88.9	66.7	77.8	88.9	66.7	0.0	0.0	
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	男性	13	69.2	84.6	69.2	38.5	38.5	61.5	53.8	0.0	0.0	
		女性	66	72.7	92.4	71.2	39.4	48.5	72.7	43.9	4.5	1.5	
		その他	1	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
	30代	男性	48	87.5	83.3	52.1	27.1	33.3	66.7	37.5	8.3	4.2	
		女性	128	80.5	85.9	75.0	35.2	57.0	63.3	52.3	3.9	0.8	
		その他	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
	40代	男性	32	84.4	84.4	75.0	43.8	46.9	53.1	43.8	0.0	3.1	
		女性	120	75.8	80.8	73.3	36.7	47.5	57.5	50.0	3.3	0.0	
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	50代	男性	42	83.3	85.7	66.7	35.7	42.9	57.1	50.0	0.0	0.0	
		女性	65	72.3	95.4	81.5	56.9	60.0	56.9	49.2	4.6	3.1	
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	60代	男性	19	84.2	78.9	78.9	57.9	36.8	63.2	31.6	0.0	0.0	
		女性	28	82.1	85.7	89.3	35.7	35.7	42.9	42.9	0.0	3.6	
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70歳以上	男性	9	66.7	88.9	44.4	22.2	11.1	33.3	11.1	0.0	0.0	
		女性	9	77.8	66.7	66.7	66.7	44.4	44.4	66.7	0.0	0.0	
その他		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

- LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は暮らしやすい社会だと思わない理由 『その他』の意見 (23 件)

【主な意見】

- ・LGBTをはじめ、マイノリティの人に対しての無自覚、無意識に差別的な扱いをしている社会の閉塞感は強いように感じる。また経済的な観点からもマイノリティだからこそ気づける視点を取り入れることが出来ないのは大きな社会的損失だと思う。(40代/女性)
- ・ところどころ条例等で同性のパートナーシップ制度が導入されている自治体もあるが、国が認めないことにはすべての性的マイノリティの人が暮らしやすい社会になるとは思えない。(30代/男性)
- ・法的に他の人と同じサポートを受けられないことがあるから。(20代/女性)
- ・若い世代には受け入れられるとしても、年配の方々の中にはまだ偏見や差別意識を持っている方がいることは事実。(悪気の有無はさておき)。また、老若問わずいじめている認識はなくともつい笑い者にすることはあると思う。(20代/女性)
- ・婚姻同様の関係にあったとしても、パートナーの傷病等の重要な場面に立ち会うことができない。(30代/女性)
- ・同一の性を持つてる方同士が愛し合っているけど今の日本の法律では結婚できないから。(30代/女性)
- ・通称名含む、対応が日本の行政体制は時代遅れ。(30代/男性)

問12 LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための取組は必要だと思いますか。

▶ 取組の必要性を感じている人は86.8%

LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための取組が必要だと思うかという質問をしたところ、全体では『必要だと思う』『やや必要だと思う』と答えた人の割合は86.8%で、必要性を感じている人の割合が最も多くなっている。

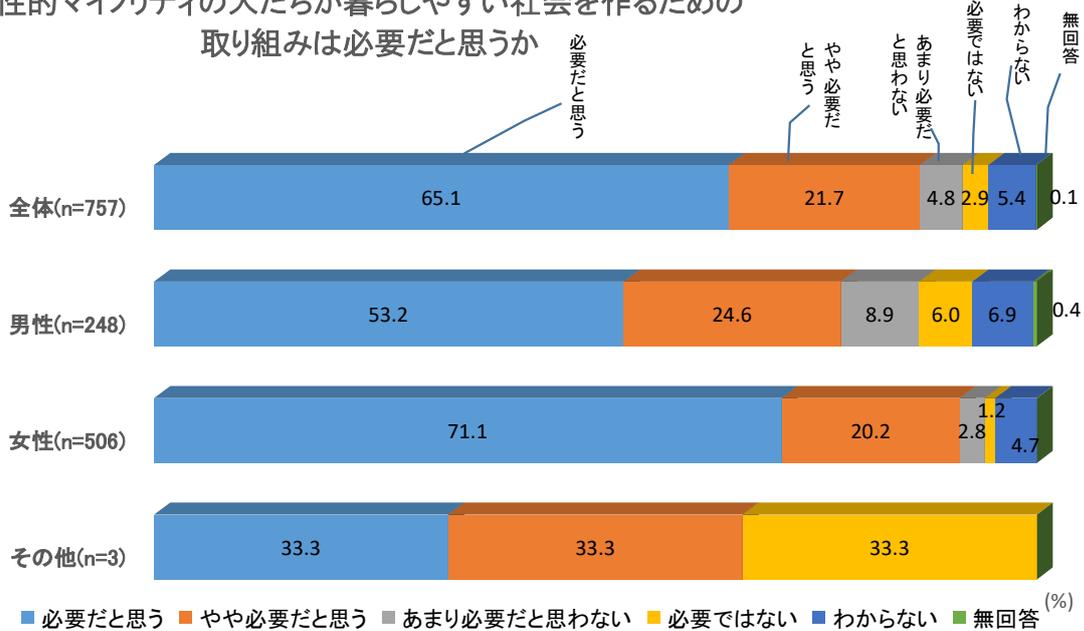
また、逆に『必要ではない』『あまり必要だと思わない』と答えた人の割合は、7.7%となっている。

性別で見ると、『かなり必要だと思う』と『必要だと思う』と答えた女性は91.3%で、男性の77.8%を13.5ポイント上回っている。

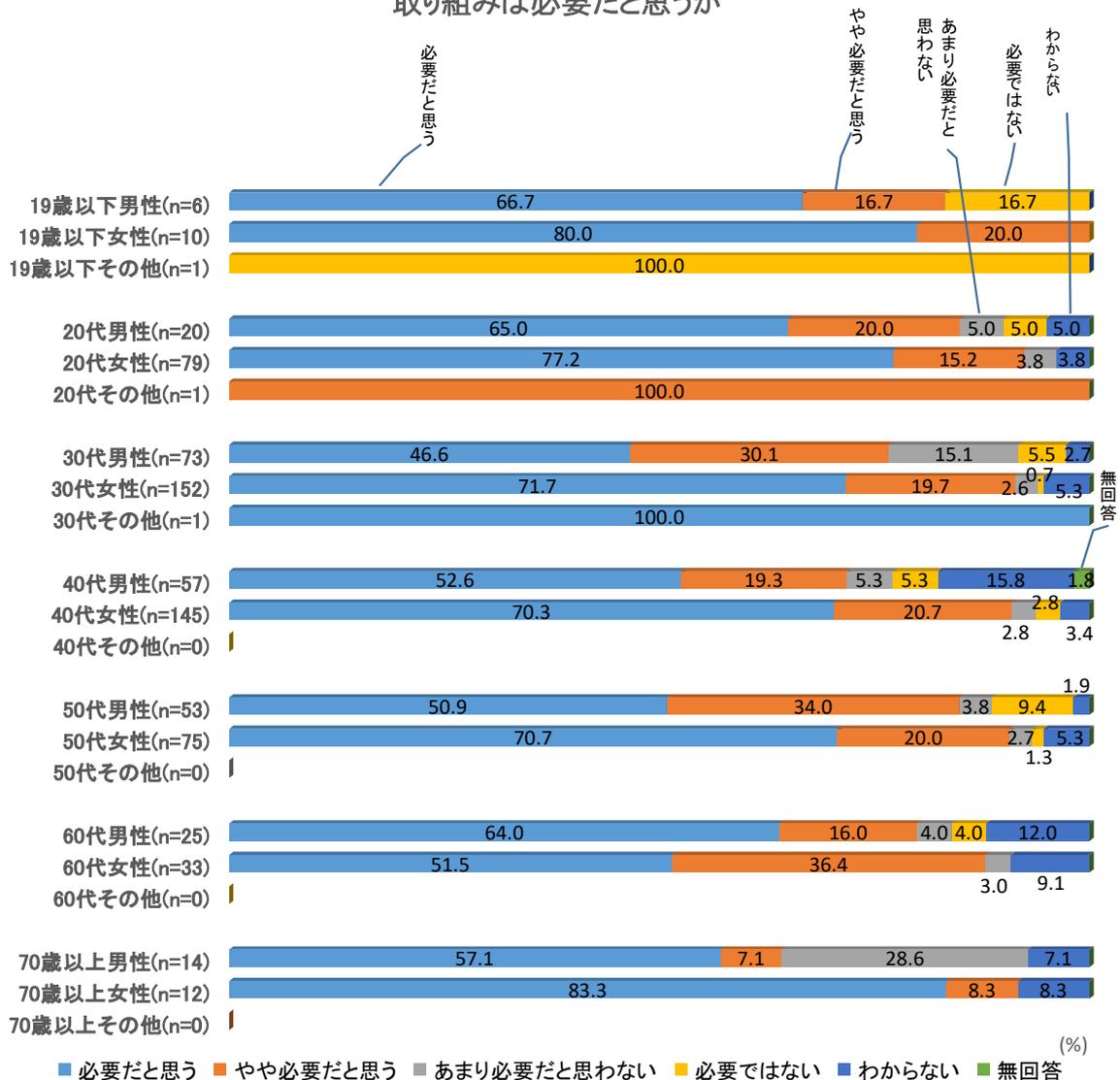
年代別で見ると、70歳以上男性では『必要だと思う』『やや必要だと思う』と答えた人の割合は64.2%と年代別・性別で最も低かった。

令和3年1月の市民意識調査時では、「かなり必要だと思う」、「必要だと思う」を合わせて67.2%であったが、今回は19.6ポイント高くなった。

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための
取り組みは必要だと思うか



性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための
取り組みは必要だと思うか



問12

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための取り組みは必要だと思うか

項目		標本数		必要だと思う	やや必要だと思う	あまり必要だと思わない	必要ではない	わからない	無回答
				人	%	%	%	%	%
性別	全体	757	65.1	21.7	4.8	2.9	5.4	0.1	
	男性	248	53.2	24.6	8.9	6.0	6.9	0.4	
	女性	506	71.1	20.2	2.8	1.2	4.7	0.0	
	その他	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	66.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
		女性	10	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	65.0	20.0	5.0	5.0	5.0	0.0
		女性	79	77.2	15.2	3.8	0.0	3.8	0.0
		その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	46.6	30.1	15.1	5.5	2.7	0.0
		女性	152	71.7	19.7	2.6	0.7	5.3	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	52.6	19.3	5.3	5.3	15.8	1.8
		女性	145	70.3	20.7	2.8	2.8	3.4	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	50.9	34.0	3.8	9.4	1.9	0.0
		女性	75	70.7	20.0	2.7	1.3	5.3	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	64.0	16.0	4.0	4.0	12.0	0.0
		女性	33	51.5	36.4	3.0	0.0	9.1	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	57.1	7.1	28.6	0.0	7.1	0.0
		女性	12	83.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問13 問12で「必要だと思う」、「やや必要だと思う」と答えた方で、どのような取組が必要だと思いますか。

▶ 「教育現場での啓発・配慮」が82.2%

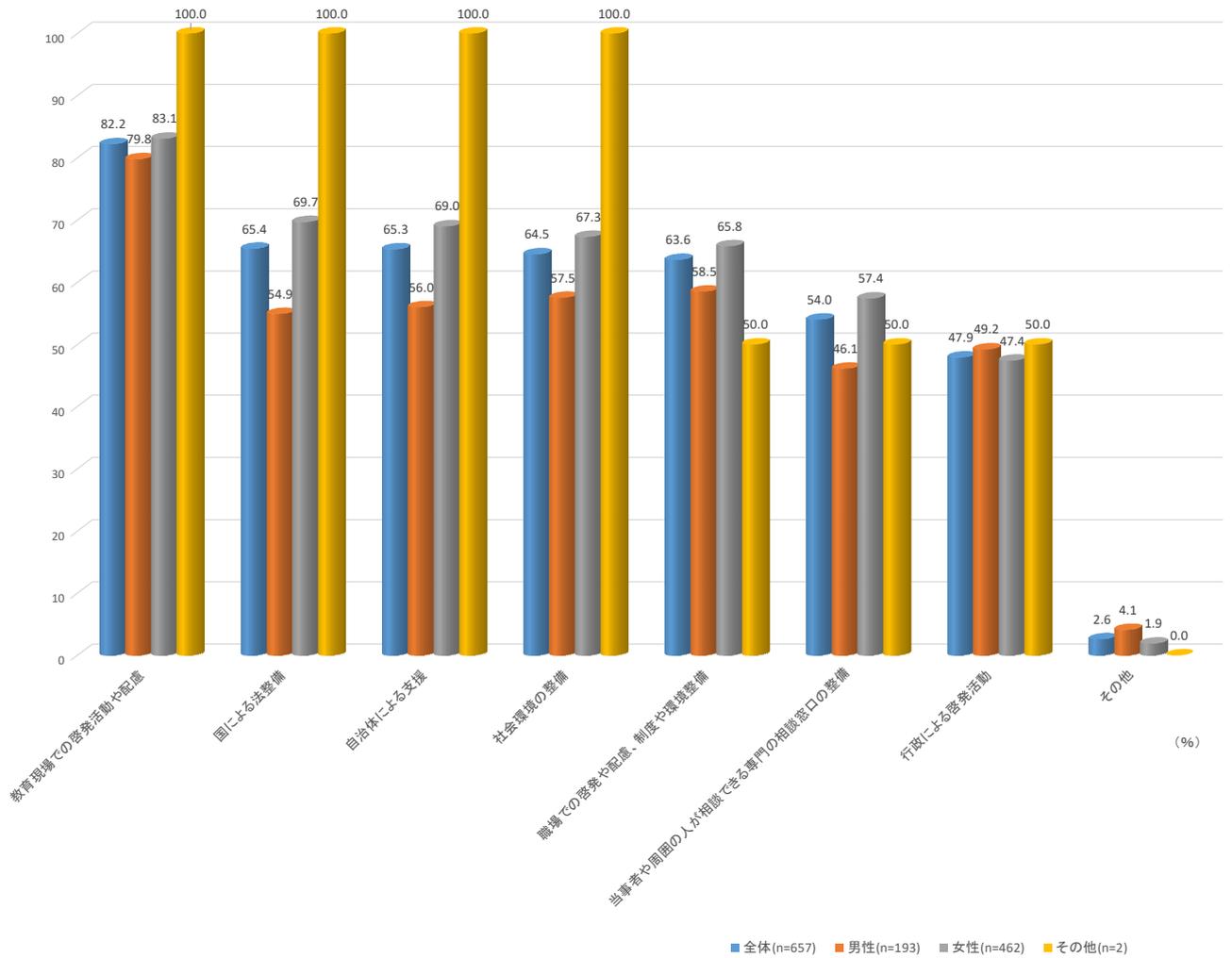
「必要だと思う」、「やや必要だと思う」と答えた方に、性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るためにどのような取組が必要かを質問したところ、「教育現場での啓発活動や配慮」が82.2%で最も多く、次いで「国による法整備」が65.4%、「自治体による支援（パートナーシップ証明書の発行、LGBTQ+支援宣言など）」が65.3%となっている。

性別にみると、女性は全体の割合の順位と同じだが、男性で最も多いのは「教育現場での啓発活動や配慮」で79.8%、次いで「職場での啓発や配慮、制度や環境整備」で58.5%、「社会環境の整備」57.5%の順であった。

令和3年1月の市民意識調査時では、『学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる』が71.1%で最も多く、次いで『広報紙やホームページ、講演会等により、多様な性のあり方についての情報発信や啓発活動を行う』が46.9%、『法律・条例等に性的少数者の人たちへの偏見や差別解消への取組を明記する』が40.8%であった。

どちらの調査でも、学校における教育や啓発、配慮といったことが最も大切であるとする意見が多いことが分かった。

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るために、
どのような取り組みが必要だと思うか



問13

性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るために、どのような取り組みが必要だと思うか
 (問12で「必要だと思う」「やや必要だと思う」と回答した方)

※複数回答のため、性別ごとの百分比の合計は100%を超えています。

標本数		全体	男性	女性	その他
		657人	193人	462人	2人
		%	%	%	%
項目					
1	教育現場での啓発活動や配慮	82.2	79.8	83.1	100.0
2	行政による啓発活動	47.9	49.2	47.4	50.0
3	自治体による支援	65.3	56.0	69.0	100.0
4	職場での啓発や配慮、制度や環境整備	63.6	58.5	65.8	50.0
5	当事者や周囲の人が相談できる専門の相談窓口の整備	54.0	46.1	57.4	50.0
6	社会環境の整備	64.5	57.5	67.3	100.0
7	国による法整備	65.4	54.9	69.7	100.0
8	その他	2.6	4.1	1.9	0.0

●どのような取組が必要か 『その他』の意見 (23 件)

【主な意見】

- ・公共の機関で働く人材や役職の人事で性的マイノリティの方が積極的に登用される事例が増えれば、地元企業でも新たな価値観が広がるのでは。(40代/女性)
- ・性的マイノリティの方を支援する一方で、性犯罪の危険性も危惧しなければならないと思う。二つの両立を国や自治体で議論すべき。(20代/男性)
- ・若い人より年配の方々の理解が乏しいと思います。偏見や言葉で話したりしていません。お年寄りの認識を何とかした方がいいと思います。(50代/女性)
- ・世間の人達が理解し、受け入れられるようになるまでには相当な時間がかかると思います。まずは各家庭で話し合う事が大事なのでは？と思います。異性に興味をもつ事が一般的だが、そうではない人達もいる事を話し、教育現場や行政は、その後のフォローという形で携わっていくのが理想では？(60代/女性)
- ・通称名の使用 (30代/男性)
- ・制服に関して、女子のスラックス導入などマイノリティに理解があるような学校が増えてきているが、男子のスカート選択ができないところもあるとききます。これでは理解してもらえてるとはいえないのではないのでしょうか。(40代/女性)
- ・パートナーシップ制度など、行政による支援は絶対に必要だと思うが、あくまで意見や案を出す主体は当事者たちであるべきだと思っている。そもそもLGBTというくくりが大雑把過ぎて、何をすれば助けになるのか検討がつかない。例えば、同性愛の方が社会に求める事と、性同一性障害の方が社会に求めている事が、全く同じ物であるとは到底思えない。(30代/女性)

問14 「パートナーシップ制度」の取組を、本市でも実施する必要があると思いますか。

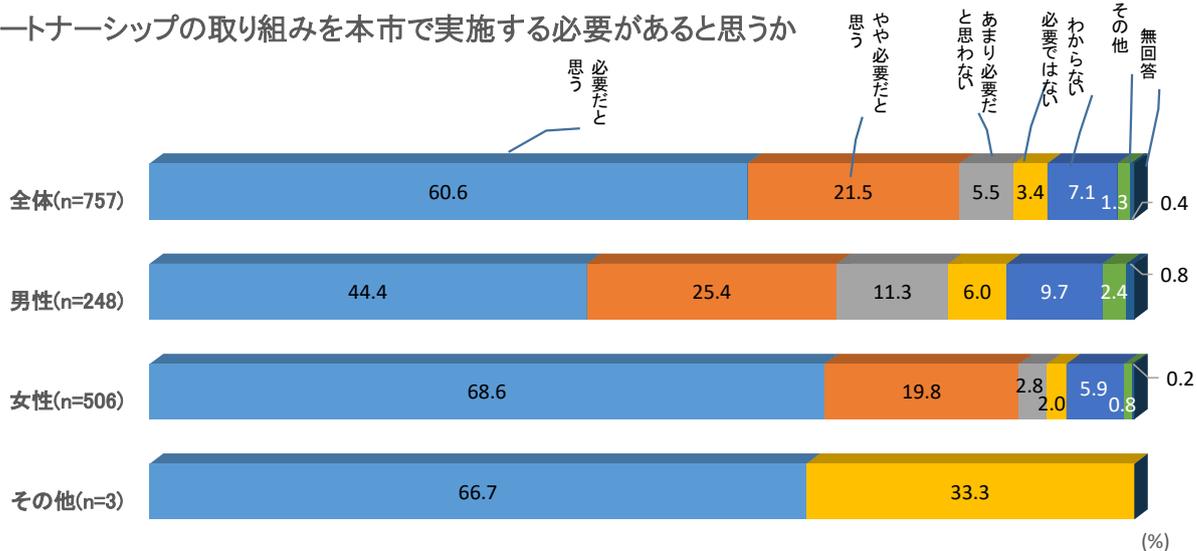
▶ 取組の必要性を感じている人は82.1%

「パートナーシップ制度」の取組を、本市でも実施する必要があると思うかという質問をしたところ、『必要だと思う』『やや必要だと思う』と答えた人の割合は82.1%となっている。

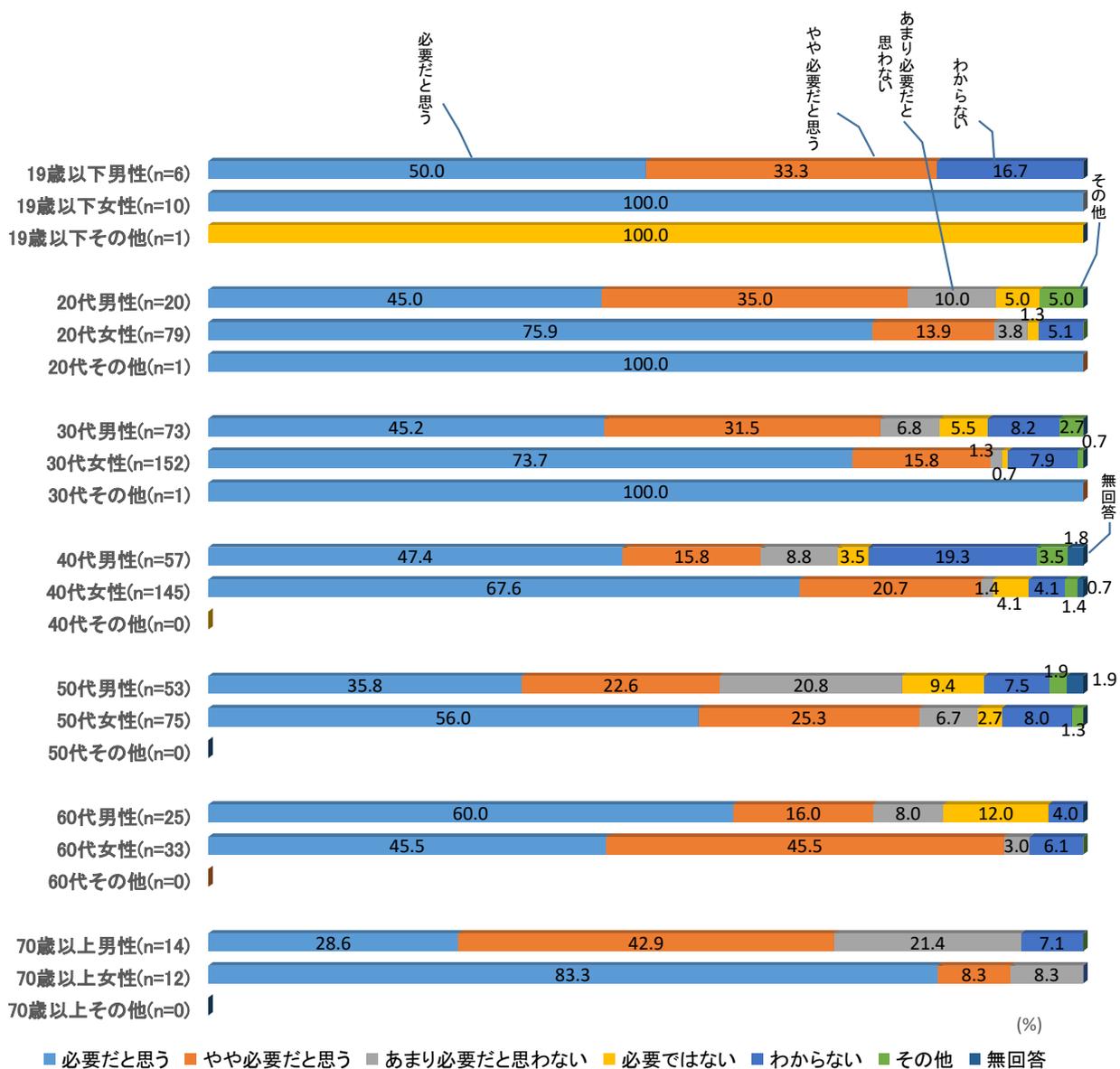
また、逆に『必要ではない』『あまり必要だと思わない』と答えた人の割合は、8.9%となっている。

性別で見ると、『必要だと思う』と『やや必要だと思う』と答えた人の割合は、女性では88.4%で、男性の69.8%を18.6ポイント上回っている。

パートナーシップの取り組みを本市で実施する必要があると思うか



パートナーシップの取り組みを本市で実施する必要があると思うか



問14

パートナーシップの取り組みを本市で実施する必要があると思うか

項目	標本数		必要	やや必要	あまり必要ではない	必要ではない	わからない	その他	無回答	
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	
性別	全体	757	60.6	21.5	5.5	3.4	7.1	1.3	0.4	
	男性	248	44.4	25.4	11.3	6.0	9.7	2.4	0.8	
	女性	506	68.6	19.8	2.8	2.0	5.9	0.8	0.2	
	その他	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
		女性	10	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	45.0	35.0	10.0	5.0	0.0	5.0	0.0
		女性	79	75.9	13.9	3.8	1.3	5.1	0.0	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	男性	73	45.2	31.5	6.8	5.5	8.2	2.7	0.0
		女性	152	73.7	15.8	1.3	0.7	7.9	0.7	0.0
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	47.4	15.8	8.8	3.5	19.3	3.5	1.8
		女性	145	67.6	20.7	1.4	4.1	4.1	1.4	0.7
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	35.8	22.6	20.8	9.4	7.5	1.9	1.9
		女性	75	56.0	25.3	6.7	2.7	8.0	1.3	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	60.0	16.0	8.0	12.0	4.0	0.0	0.0
		女性	33	45.5	45.5	3.0	0.0	6.1	0.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	28.6	42.9	21.4	0.0	7.1	0.0	0.0
		女性	12	83.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他		0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

- 「パートナーシップ制度」の取組を、本市でも実施する必要があると思うか『その他』の意見（19 件）

【主な意見】

- ・少なくとも自分の周りには性的マイノリティの方を知らないので、制度の必要性を感じない。（自ら性的マイノリティですよとは言わないので知らないだけかもしれませんが。）（40代／男性）
- ・必要だと思うし、そもそも同性婚を認めていないことに問題があると思う。異性婚だけを当たり前とせず、同性婚も社会的に認めるべきである。（30代／男性）
- ・大村市に居住していても市外に勤務している人は多く、県全体で制度を整える方が現実的に有効だと思います。大村市だけでなく近隣との連携が必要。（30代／女性）
- ・必要がないわけがない。ただ一緒にいたい人といられるようにすべき。（30代／女性）
- ・実施することによって、性的マイノリティの方たちの生きづらさが少しでも解消できるならしたほうが良いと思います。（30代／男性）
- ・制度として持ち込むのは反対。悪用を考えるべき。（50代／女性）
- ・必要だと思うが、それによってマジョリティ側が多大な負担（コスト増や不利益）になるのであれば不要。（40代／男性）
- ・必要ではないという選択肢が理解できない。たまたまマジョリティに属した私たちは、世間の方が自分の性や性の対象者を受け入れてくれるが、たまたまマイノリティになった人たちだけは、世間からからだの悩みも性の対象も受け入れてもらえない。それがどれだけ自分という存在を否定されてると感じるか、マジョリティに属する人たちがマイノリティ側となり想像力を働かせることは、平等な世の中の実現に欠かせない努力だと思う。（30代／女性）

問15 「パートナーシップ制度」の取組について、事情により婚姻に至らない異性カップルも含めて対象にする必要があると思いますか。

▶ 異性カップル含める必要性を感じている人は64.7%

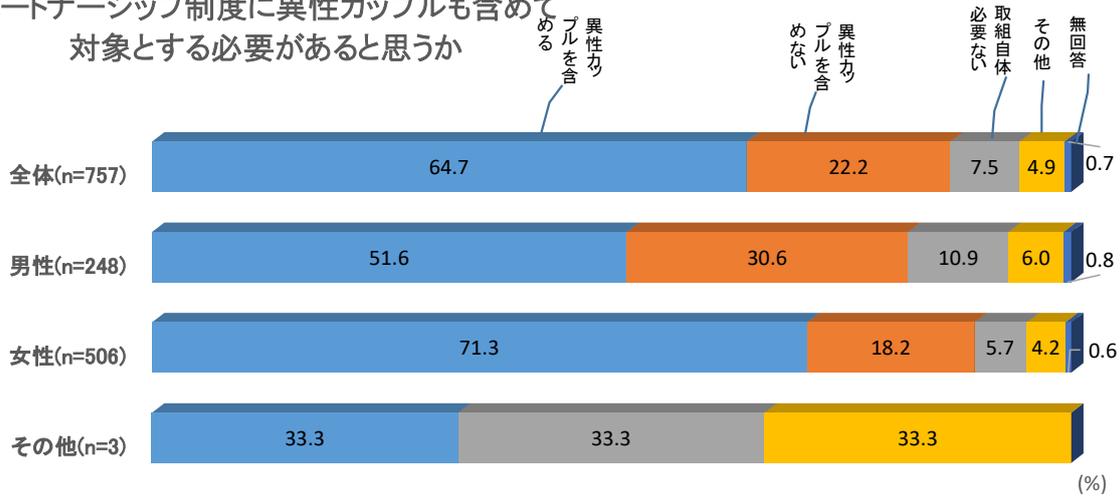
「パートナーシップ制度」の取組について、事情により婚姻に至らない「異性カップルも含めて対象にする必要があると思う」人の割合が64.7%と最も多く、次いで「異性カップルを含める必要はないと思う」人の割合が22.2%、「取組自体が必要ないと思う」人の割合が7.5%であった。

性別で見ると、「異性カップルも含めて対象にする必要がある」と答えた女性は71.3%で、男性の51.6%を19.7ポイント上回っており、一方で、「異性カップルを含める必要はないと思う」と答えた男性は30.6%で、女性の18.2%を12.4ポイント上回っている。

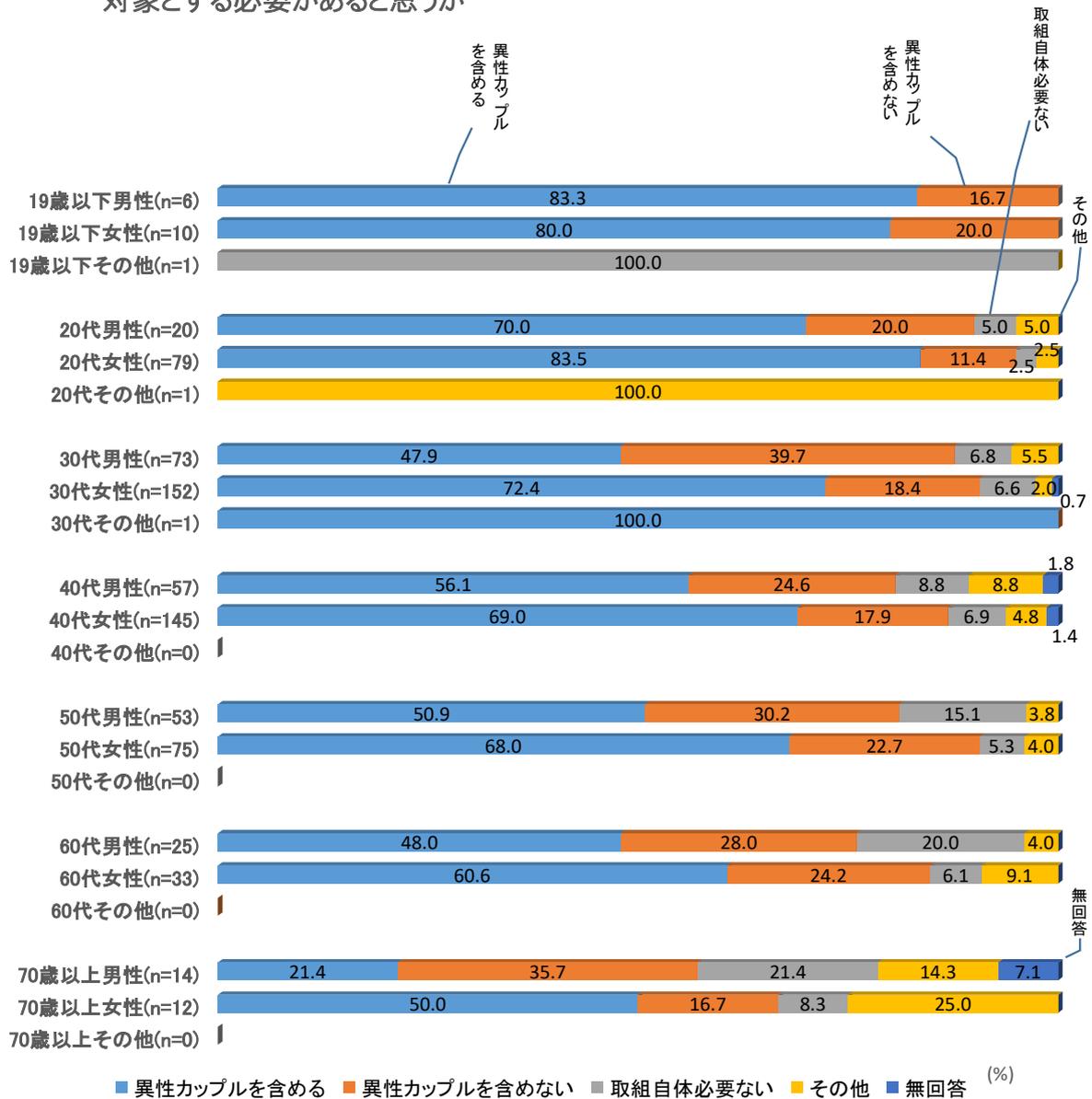
年代別で見ると、70代以上で「異性カップルも含めて対象にする必要がある」と答えた人の割合が4割以下で最も低く、そのうち男性は21.4%と最も低かった。

本設問については、他自治体で導入されている「性的マイノリティを条件としないパートナーシップ制度」の検討のため設定した。

パートナーシップ制度に異性カップルも含めて
対象とする必要があると思うか



パートナーシップ制度に異性カップルも含めて
対象とする必要があると思うか



問15

パートナーシップ制度に異性カップルも含めて対象とする必要があると思うか

項目		標本数		異性カップルを含める	異性カップルを含めない	取組自体必要ない	その他	無回答
		人	%	%	%	%	%	
性別	全体	757	64.7	22.2	7.5	4.9	0.7	
	男性	248	51.6	30.6	10.9	6.0	0.8	
	女性	506	71.3	18.2	5.7	4.2	0.6	
	その他	3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	
性別 × 年代別	19歳以下	男性	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
		女性	10	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	20代	男性	20	70.0	20.0	5.0	5.0	0.0
		女性	79	83.5	11.4	2.5	2.5	0.0
		その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30代	男性	73	47.9	39.7	6.8	5.5	0.0
		女性	152	72.4	18.4	6.6	2.0	0.7
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	男性	57	56.1	24.6	8.8	8.8	1.8
		女性	145	69.0	17.9	6.9	4.8	1.4
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	男性	53	50.9	30.2	15.1	3.8	0.0
		女性	75	68.0	22.7	5.3	4.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	男性	25	48.0	28.0	20.0	4.0	0.0
		女性	33	60.6	24.2	6.1	9.1	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	男性	14	21.4	35.7	21.4	14.3	7.1
		女性	12	50.0	16.7	8.3	25.0	0.0
		その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

- 「パートナーシップ制度」に異性間の事実婚を含める必要があると思うか
『その他』の意見（33 件）

【主な意見】

- ・性別に関係なく、希望者には夫婦と同等の権利を認めるべきだと思います。（40代／女性）
- ・パートナーシップ制度については、性的マイノリティに対する配慮、夫婦別姓制度に対する配慮、現在行われている、いわゆる内縁に対する配慮を整理して、行っていただきたいと思う。（50代／女性）
- ・異性カップルでパートナーシップ制度は事情をよく確認すべき。現状事実婚状態で不正に生活保護受給している人たちの隠れみものになるのでは。（30代／男性）
- ・事実婚の証明にもなると思うから。（20代／女性）
- ・根本的には国の法律（相続や税制優遇に関する部分）が改正にならないと自治体単位で認定しても実質上、当事者にはほとんど恩恵がない。しかしながら、現状で国がすぐ改正する可能性は低いと思われるので、地道に広げていくしかないと思う。（50代／男性）
- ・考えたことはありませんでしたが、たしかにあってもいいかもと思いました。同性同士ではないが結婚は“男女”でしか出来ないからしない、という方もいると思いますので、ある方が選択肢が広がると思いました。（20代／その他）
- ・問題が複雑で大変難しい。（70代以上／男性）

問16 性的少数者（LGBT）に関する制度や取組について、ご意見があれば、ご記入ください。

●自由意見（116件）

【主な意見】

- ・パートナーシップ制度の導入を強く求めます。当事者が声をあげづらい問題なので、自治体が率先して姿勢を示すことで、理解者が増えると嬉しいです。（40代／女性）
- ・「LGBTQ」について語り合う場（家庭、友達、子育て、教育、職場、老人会、サークルなど）を増やすことが、認知の広がりにつながるのではないかと。（50代／男性）
- ・言葉として知っていてもLGBTQについての一般の方の現実的な理解がまだまだ進んでいないと思う。啓発にもっと力を入れていく必要があるのでは。（70代以上／男性）
- ・制度を悪用される可能性や例がないのか気になるところです。（30代／男性）
- ・パートナーシップ制度を実施することは前提の上で、同性婚を認めるよう国に法制度の確立を要望すべきである。（20代／男性）
- ・性的少数者に対する偏見や差別がなくなることを目指して取組を進めていただきたい。（40代／男性）
- ・そもそも、アンケートの結果で取り組む、取り組まないを決めるのでは遅い。問題になっているのであれば、実施すべき。実施後に問題があれば、その都度、改正していけばよい。（50代／男性）
- ・同性婚を早く認めて欲しい。世の中の全ての人を幸せにして欲しい。（19歳以下／女性）
- ・わざわざ大騒ぎして、そうでなかった人までそっちに行ってしまうたりする人もいると聞いたこともあるので、あまりにも世間が騒ぎ過ぎだと思う。性の多様性を否定はしないが、それが当たり前だというような社会であってはいけないと思う。少子化少子化と叫ばれる世の中と全く逆行しているからだ。（50代／男性）
- ・結婚しない女性や同性のカップルについて、非生産性であるという意見があるのは聞いたことがあります。身近にLGBTQ+の方がいるわけではないですが、そういう意見を聞くととても悲しくなります。同性パートナーシップ関係だけでなく、これからはいろんな多様性が受け入れられる世の中になって欲しいです。（40代／女性）
- ・性的マイノリティの方が住みやすい町になったらいいと思う。大村市もパートナーシップ制度取り入れたら、悲しい思いをする人も減るのではないのでしょうか。（30代／女性）
- ・性的マイノリティに関する制度や取り組みが行われることで性的マイノリティが注目されることになり、非常に迷惑です。性的なことは公言するものではないです。恥ずかしく思います。よかれと思って政策にしようと思っているのかもしれませんが、逆効果です。迷惑です。そっとしておいていただきたい。（40代／女性）

・私は性的少数派ではありませんが、学生の制服の選択の自由や性的少数派の方たちが使用しやすいトイレの整備、住宅ローンの仕組みの改正など、いろんな人達が住みやすい大村市になれば、もっと住みやすい自治体になればいいと思います。(40代/女性)

・偏見があり、本人がカミングアウトできない状況があると思うし、性別というより、個人個人を評価する体制作りが必要だと思う。学校、仕事の制服等、女性は女性、男性は男性とかではなく、どちらにも受け入れられるような制服があってもいいのかもしれないです。(30代/女性)

・性的少数者は、まだまだ社会的に認知されていないので、さまざまな支援が必要であると思う。私の娘も親に告白するまでに、非常に悩んでいた姿を見てきたので、当人の気持ちを察すると胸の痛みを覚えます。憲法にも保障されているように誰もが一人の人間として快適に過ごすことが当たり前でできる世の中を作っていくべきと考えます。男だから女だから、こうあるべきという古い考え方は無くして多様な考え方を育てていくべきと考えます。(60代/男性)

・若い世代にはある程度理解があると思うが、上の世代の方は理解が出来ない部分もあると思う。LGBTだけではなく、その他の社会的問題(少子化等)についても上の世代には理解し難い事があると思う。この様にアンケートを大村市が実施している事が本当に大切で大村市民として誇りだと思う。しかし、こういった社会的問題(LGBTや少子化(育休の取りにくさや金銭的問題))は表面的な問題ではなく、もっと深い場所に問題があると私は思う。もちろんこの様な行政による行動などはとても大切だとは思いますが、理解が出来ない方達の意識改革が根本的な問題では？と思っています。

(20代/男性)

・今はまだ小さい我が子がこれから先、性別に悩むことがあったら、あたたかく受け入れられる理解ある社会になってほしいと願っています。自認する性別に関しては、自分の性別は自分で決めるといった考えがこれからは必要になるし、子供からお年寄りまで学ぶきっかけ作りが今後の偏見や差別をなくすことに繋がっていくと思います。(30代/女性)

「性の多様性」に関する市民意識調査票

問1 あなたの居住地区を選んでください。

- 1 三浦地区 2 鈴田地区 3 大村地区 4 西大村地区 5 萱瀬地区 6 竹松地区
7 福重地区 8 松原地区

問2 あなたの年齢をお尋ねします。(回答日現在)

- 1 19歳以下 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代
7 70歳以上

問3 あなたの戸籍上の性別について、当てはまるもの一つにチェックしてください。

- 1 男性
2 女性
3 その他()

問4 あなたの自認(自覚)する性別について、当てはまるもの一つにチェックしてください。

【補足】Xジェンダー:男女の性を明確に自認していない人。例えば、両性、中性、無性、不定性の人など。

- 1 戸籍上の性別と同じ
2 戸籍上の性別と異なる
3 Xジェンダー
4 わからない
5 その他()

問5 あなたの恋愛や性愛の傾向(好きになる相手)で、当てはまるもの一つにチェックしてください。自認(自覚)する性をもとにお答えください。

- 1 同性
2 異性
3 性別を問わない
4 恋愛感情を抱かない
5 わからない
6 その他()

問6 「性的少数者(性的マイノリティ)」または「LGBTQ+」という言葉について、あなたの認識で当てはまるもの一つにチェックしてください。

※女性の同性愛者(レズビアン)、男性の同性愛者(ゲイ)、両性愛者(バイセクシュアル)、体と心の性に違和感がある人(トランスジェンダー)などを表す総称として、「性的少数者(性的マイノリティ)」または「LGBTQ+」という言葉があります。

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3 知らない

問7 あなたの周りで、LGBTQ+などの性的マイノリティ当事者の方は身近にいますか。当てはまるもの一つにチェックしてください。

- 1 いる
- 2 いない
- 3 その他()

問8 性的指向(好きになる性)や性自認(自覚している性)について、本人の了解を得ずに、第三者に暴露する行為を「アウティング」といいます。「アウティング」という言葉について、あなたの認識で当てはまるもの一つにチェックしてください。

- 1 知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3 知らない

問9 LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちにとって、今の社会は暮らしやすい社会だと思いますか？当てはまるもの一つにチェックしてください。

- | | | |
|------------------|---|------|
| 1 暮らしやすいと思う | } | 問10へ |
| 2 まあまあ暮らしやすいと思う | | |
| 3 あまり暮らしやすいと思わない | } | 問11へ |
| 4 全く暮らしやすいと思わない | | |
| 5 わからない | | |

※問9で「暮らしやすいと思う、まあまあ暮らしやすいと思う」と答えた方にお尋ねします。

問10 そう思う理由を記入してください。

()

※問9で「あまり暮らしやすいと思わない、全く暮らしやすいと思わない」と答えた方にお尋ねします。

問11 そう思う理由にチェックしてください。(複数選択可)

- 1 差別や偏見、いじめや嫌がらせが存在していると思うから
- 2 家族や友人等に相談しづらく、周囲の人から理解されにくい状況があると思うから
- 3 性別で区別された制服や設備(トイレ・更衣室等)などで生活しづらいと思うから
- 4 就職や職場で不利・不当な扱いをされると思うから
- 5 書類等で性別の記載をすることに抵抗や負担があると思うから

- 6 同性パートナーとの関係を認めてもらえないから
- 7 行政機関などの相談体制が不十分だと思うから
- 8 その他()
- 9 理由を考えたことはない

問12 LGBTQ+などの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るための取組は必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いもの一つにチェックしてください。

- 1 必要だと思う
 - 2 やや必要だと思う
 - 3 あまり必要だと思わない
 - 4 必要ではない
 - 5 わからない
- } 問13へ
- } 問14へ

※問12で「1 必要だと思う」、「2 やや必要だと思う」と答えた方にお尋ねします。

問13 どのような取組が必要だと思いますか。必要と思うものにチェックしてください。(複数選択可)

- 1 教育現場での啓発活動や配慮(学習機会の充実、制服やトイレの配慮など)
- 2 行政による啓発活動 (広報紙やホームページによる情報発信、研修や講演会の実施)
- 3 自治体による支援(パートナーシップ証明書の発行、LGBTQ+支援宣言など)
- 4 職場での啓発や配慮、制度や環境整備(ハラスメント防止窓口の設置など)
- 5 当事者や周囲の人が相談できる専門の相談窓口の整備
- 6 社会環境の整備(だれでも使えるトイレや更衣室の整備等)
- 7 国による法整備(偏見・差別解消の取組を明記した法制定、同性婚を認めるなど)
- 8 その他()

問14 あなたは、LGBTQ+などの性的マイノリティである2人が、互いを人生のパートナーとして認め合い、協力し合う関係であることを自治体に届け出ることにより、自治体が婚姻に相当する関係と証明する「パートナーシップ制度」の取組を、本市でも実施する必要があると思いますか。当てはまるもの一つに、チェックしてください。

- 1 必要だと思う
- 2 やや必要だと思う
- 3 あまり必要だと思わない
- 4 必要ではない
- 5 わからない
- 6 その他()

問15 あなたは、「パートナーシップ制度」の取組について、事情により婚姻に至らない異性カップルも含めて対象にする必要があると思いますか。当てはまるもの一つに、チェックし

てください。

(例:どちらか一方の氏を選択できない、子や親から婚姻の同意が得られないなど)

- 1 異性カップルも含めて対象にする必要があると思う
- 2 異性カップルを含める必要はないと思う(同性カップルのみを対象にすればいい)
- 3 取組自体が必要ないと思う
- 4 その他()

問16 性的少数者(LGBT)に関する制度や取組について、ご意見があれば、ご記入ください。

()

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。